

人生ハンド仏句

第140号

H. 25. 11. 1
(毎月1日発行)

心のすさみを

なくすため

住職 谷川寛俊

知る人ぞ知る。「トイレ掃除」で有名なイエローハットの創業者、鍵山秀三郎さんは、昭和四年東京でお生まれになり、昭和三十年に現在のイエローハットの前身であるローヤルを創業し、自動車用品の販売を手掛けられました。現在は「日本を美しくする会」の相談役として、日本国内のみに限らず、世界各地に赴き、自ら率先して「そうじ」を行い、人間の生き方の本義について説いて回っております。

その原点は、そうじ好きの両親から「貧しくてもきれいに暮らすことの大切さを教えられたことにある」と言います。そして、なかなか変えようにも変える事の出来ない人の心を

かえるのには「そうじの力」が、計り知れないものであることを実社会の荒波にもまれながら骨身にしみて学ばれたのだと折あるごとに述懐されています。

ある新聞のインタビュで「私も怒ることはありますが、決して人を憎んだりはいらないことにしているのです。恨みはすさみを生み、結局のところ、そうした心のすさみは世の中を悪くしていくのです。私はこの心のすさみが嫌い、これをなくして少しでも社会を良くしたいと始めたのが、そうじという小さな行動でした。不思議なことですが、そうじをすると心が澄んでくるんですよ。夏の夕立が過ぎ去ったあとの大空のようにね・・・」

鍵山さんの「トイレそうじ」を始めるきっかけは、ちょうど高度経済成長期で、ひどい人材不足だった当時、二流三流と見られていた自動車業界に来る「渡り鳥（いろんなところであつらい目に遭って流れた人達）」の心をなんとか穏やかにしたいと思い、口や文章で語

「人生ハンド仏句」

と打ち込んで頂けば、ホームページにつながります。

編集・発行
玉蓮山 真成 寺
編集部 谷川久仁子
TEL・FAX 0765-22-2268

りかけるより、自分の態度や生き方で示すしかないと考えた末、まず自分の職場をきれいにしようと、「トイレそうじ」を始めたことでした。いくら小さな会社とはいえ、社長自らトイレ清掃とは前代未聞のこと。「渡り鳥」の社員

たちは最初「物好きでやっているのか」という程度で、まったく無関心でしたね。そして自発的に手伝うようになるまで十年かかったと言います。やがてこうした活動は、社内のみにとどまるものではなく、半径二、五キロにわたって、道路や公園のゴミ拾いまで行うようになったとのこと。今では社員の方が率先してやってくれると言います。

又、「トイレ掃除」に関しては、「私は最初から素手で掃除をしています。一番合理的に便器をみがきあげられるからです。小便器の水漉（こ）しなど持ち上げると茶色いどろどろの汚水が垂れるほど汚れています。一度触ってしまうばウソのように躊躇は消えてしまう。本当ですよ」と満面の笑みを

浮かべていとも簡単に言い放ちます。そんな鍵山さんが日頃から心がけているのは、ホテルで泊まるときには洗面用具などは、自前で持つて行きホテルの備品はほとんど使わない。使用したベッドもきちんと整える。（客室の掃除の人に気持ち良く働いてほしいから）私生活でもゴミは極力出さず、人に譲れる物は譲るようにする。等々の日常生活における些細なことへの気配りなのだそうです。

「物を整理し掃除することは頭を掃除することでもあり、ムダや汚れに気づくようになる。物事に気づく人間は、人にも気配りが出来、喜ばすことが出来る人間です」こうした事のひとつひとつこそが平素、『凡事徹底（平凡と思えることを徹底して実践する）』を提唱する鍵山さんらしい生き方であり、今日私達が大いに学ばなければならぬところでもあります。



御報恩会式大法要

◎十一月三日(日)

◎御法話

・午後一時より

岐阜県美濃市
常唱寺住職

坂口慈幸上人

◎大法要

・午後二時より

日蓮大聖人様御入滅第七三二年
御報恩会式大法要がお勤めされ
ます。

年に一度の「いとこ煮」の日です。
十二時頃からいところ煮を準備して
皆様のお越しをお待ち致して居
ります。どうぞお誘い合わせの上、
お参りくださいませ。

今月のお給仕(お講) 当番は立野地
区の方々です。

よろしく、お願い致します。

お知らせ

◎毎月一日祈禱会

・午前五時から

◎水子供養会

・毎月十三日

・今月は午後一時より

※時間変更しています

◎唱題行脚

・毎月二十八日

・午後一時半より

先月は晴天に恵まれ、気持ちよく回
らせて頂きました。

谷川寛敬・土居可久子・高田富美子・
谷川まり子、大西敏明・谷川久仁子

お道具磨き



去る十月二十六日(土)、皆さんの
お陰様で、仏具磨きも無事終わしま
した。有り難う御座いました。――
あちらを見てもこちらを見てもピカ
ピカになりました。

仏様も喜んでおられることでは
う！
多くの功德を積まりましたね！

奉仕された方々(敬称略・順不同)

住職・副住職・伊藤宗治・吉田富士
夫・吉田洋子・瀬川弘一・竹田猛・
高木康史・島津恵美子・谷川知世・
谷川美紀子・谷川久仁子



ちょっと一服！

オリンピックというシンボルでも
ある「五輪の旗」を思い浮かべる方も
多いのではないだろうか。青・黄・
黒・緑・赤の5色の輪は、それぞれ、
オセアニア、アジア、アフリカ、ヨー
ロッパ、アメリカの5大陸を意味して
います。仏教にも「仏旗」というもの
があります。仏旗は、青・黄・赤・白
紫の五色が使われており、諸説ありま
すが、仏さまが神通力を使われるとき、
仏さまの体から青、黄、赤、白、紫及
び輝きの6色の光を放つと『小部經典』
というお経の中に説かれています。また
それらの色にはそれぞれ意味が込めら
れており、仏様の身体の部分、青は頭髮
「定根」(禪定)。黄は身体、「金剛」
(確固とした揺るぎない心)。赤は血液
「精進」。白は齒、「清浄」。紫は袈裟、
法衣「忍辱」。残りの色は「輝き」を表し、
旗には配色せず、他の五色を上から順
に並べた縞模様で表しています。

また、日蓮宗でも行脚する時や、三門
や本堂の入口などに掲げ用いる「南無
妙法蓮華經」と書かれた「玄題旗」と
いう旗があります。

オリンピックの旗を掲げるのは、四年
に一度ですが、お釈迦さま、日蓮聖人
の弟子である私たちは、毎日、心の中
に「お題目」「仏旗」を掲げることを行
ってはなりません。